

「勇気をだせ。そしてあなたがリーダーになろう！」

もう7年がたった。2000年の8月に私はタイトルにある訳書を出版した。原本はアメリカ人トマス N. マクガフィ氏の『The Courage To Lead』。宣伝がまずかったのか日本ではあまり売れなかった。しかし、今でも素晴らしい本と思っている。最もエッセンスと思われる部分を引用しよう。

「リーダーシップとは何か？ どのようなスキルを学習する時にも、私達が学ぶものは動作であり言動である。テニスではサーブやバックハンドやボレーのやり方を学ぶ。これらは全て具体的な動作である。しかしながらリーダーシップを学ぶ時、多くの場合、優れたリーダーシップを生み出した動作・言動よりもリーダー自身に焦点を合わせがちである。これでは不十分だ。リーダーシップを個人々々の性格と関わりなく、スキルとして学習するためには実際的な方法が必要である。

リーダーシップをスキルとして学習すれば非常に分かりやすくなる。ある人がリーダーシップを発揮している時、目に映るのは、人々に耳を傾け、目を向け、考え、対話をしているリーダーの姿である。これがリーダーシップの動作・言動であり、ここから学ぶべきものは、話し、聴き、見る、考える具体的な方法である。これが人々を鼓舞し、意欲を高め、チームワークを形成し、人々の能力を開花させ、目標を達成させるのである。

リーダーシップの基本は対話にある。対話を通じてあなたはチームの中で信頼や自信や将来に対する意欲を生み出し、行動開始に向けての毅然とした力強い決意を取り付けることができるのだ。簡単に言えば、人々をリードするために学ぶべきことは、対話をいかにうまく行うかということである。

抽象的な内容の対話ではなく、実際的な内容の対話を行うことである。これは具体的で誰もが学ぶことができる対話方法なのだ。学ぶべきことは、リーダーとして何を聞くのか、どのように見るのか、どのように考えるのか、そして人々にどのように話をするのかということである。」

ドラマ水戸黄門のリーダーシップをどう思いますか？

TBS系で放送される『水戸黄門』は、2003年12月で放送1000回を迎えた世界でも類を見ない人気長編TV番組である。私の妻は大ファン。その母、すなわち義母も大ファンだった。このドラマは全編、勧善懲悪で貫かれており、これが人気の秘密に違いない。しかし、もう少し、リーダーシップの観点から分析してみた。

ストーリー展開はほぼ次のとおりである。黄門様が訪問する地には常にトラブルがある。そして当事者たちはそのトラブルを解決することができず、困り果てている。そこへスーパーリーダーであるご老公様の登場となる。彼は優れた問題解決者としての役割を

果たす。しかも彼がその地に滞在する短期間のうちに問題は解決される。「そこにおわすは恐れ多くも水戸の御老公なるぞと」の決め台詞と印籠に象徴されるように、解決には、ご老公様という権威が大きな役割を果たす。ドラマ水戸黄門のように、いままで解決できなかった藩や地域の問題を、一人のスーパースターが登場し、容易に解決し、めでたし、めでたし、で終わる物語は洋の東西を問わず映画やテレビドラマでよくみる話である。

そこで、このようなストーリー展開は「問題は一人のスーパースターによってのみ解決される」という刷り込みを視聴者に与えるから好ましくないのでは？と、大ファンである私の妻を挑発した。すると大反論が返ってきた。

「ご老公様は、庶民に優しく接している、じゃないの！ 人々に耳を傾け、目を向け、対話をしているじゃない！ 庶民に元気を与え、生きる勇気を与えている。また問題に気づけば見てみぬ振りをするのでなく、その問題に対峙するその姿勢はリーダーシップそのものでしょう。また家臣をそれぞれ助さん、格さんとニックネームで呼ぶなど、極めてインフォーマルな関係を形成し、オープンコミュニケーションを実践しているよ。」「しかも、ご老公様は通常は庶民の前で越後の縮緬問屋の隠居・光右衛門に徹しきっており偉そうに振舞うことはなく、権威をかざすこともない。権威を利用するのは悪を退治するときだけよ。」妻の反論に、うんうんとうなずくばかりである。ご老公様の多くの言動、姿勢は確かにリーダーシップスキル実践のロールモデルといえるだろう。

しかし、「問題はこのような、一人のスーパースターによってのみ解決される」という刷り込みを視聴者に与えるという側面は否めない。ご老公様の登場なくして問題の解決がなされない。もうひとつの問題は、登場人物をこの人は善人、あの人は悪人と単純に設定することだ。現実の世界ではそれぞれの人が善さと醜さを併せ持つもの。それ故に、各人がリーダーシップスキルについて学習し、改善することすることの意義がでてくる。

さて皆さんはどう思われる？

結 | 集 | 後 | 記

毎朝、家を出る時ほぼ90%の人は「今日も頑張ろう」という意欲にあふれているはずです。しかし、オフィスで上司から罵倒され、あるいは属するサークルや組織の同僚から無視されたり、意地悪をされ、一日を不愉快な思いで過ごすことになる人がどれだけいることでしょうか。

一方で、リーダーが語る言葉によって元気をもらい、新たな意欲・姿勢を持つ人も多くいます。しかも、このような元気・意欲を生むためにはほんの30秒足らずの会話で十分な場合が多いのです。

野尻